



## ☆ プールが最高 楽しい!!! ☆

今日は、だんだんと天気が回復し、日中は絶好のプール日和となりました。子どもたちが、この時期なんといっても楽しみにしているのはプールでの学習です。梅雨に入り、おあずけだったクラスの子どもたちは大喜び。楽しそうに学習しています。

今とは違って、私が子どもだった頃のプール学習は楽しいというよりも過酷だった気がします。放課後に特別水泳練習が行われるのです。総社市の大会

に参加するためにかなり厳しい特訓を当時は受けていました。まだ低学年のころだったか、やっと水の上に浮けるようになった者は、すぐに練習に参加です。学年プールとは違って全学年一緒に練習するので、周りには大きい学年の立派な体格のお兄さんお姉さんたちがすごいスピードでどんどん追い抜いていきます。私は、必死についていこうとしますが、もちろんついていけないわけもなく、見よう見まねをするのが精いっぱいです。そのうち、涙があふれてきます。



しかし、水中なので、誰からも気づかれません。気づいてくれれば「大丈夫か？上で休もうか」なんて言葉もかけてもらえるのですが状況は最悪です。もうどうしようもないのです。絶望感というか、なんというか、『水泳なんか大きらい』になってしまいそうですが、私も子どもながらに、負けず嫌いを発揮します。練習を続ける高学年(ほぼ大人たち)の波に乗って必死で手足を動かしていると、知らず知らずのうちに途中で足をつかずに泳げるようになっていきました。

端から端まで泳げようになると大会出場決定です。ところが、うれしいなんて気持ちには全くなりません。大会なんてとんでもない。不安です。こんなことなら泳げない方が良かったとネガティブ思考が張り裂けそうです。もうやるしかない!心臓バクバク。ものすごく緊張してスタート台に上ったことは覚えています、その後の記憶は全くありません。

どうでしょう?皆さんもこんな経験をしたことがあるのでは。自分がどんどん追い込まれていく状況、周りには圧倒的な力を持つ人ばかり。環境が人を育てるなんて言いますが、当事者にとってはたいへんです。あきらめたくなくなります。逃げ出したくなります。でもやらざる負えないこともあります。『いやだったらやめてもいいよ...』⇔『できることからはじめれば...』⇔『やってみたらいいんじゃない、きっとできるよ...』⇔『やるしかないんだ』今はどの言葉が優先される時代になっているのか、大好きな水泳学習を楽しむ子どもたちを見ながら幼少期の思い出が蘇りました。

この話には続きがあります。私が高学年になると50mの長水路で大会が行われるというのです。そうです、あの深くて足がつかない市営プールです。一度、市営プールに遊びに行ったことがある私には、そこは今のようきれいな塗装はされていないコンクリート色の恐怖の場所でした。途中でおぼれないためには泳ぎ切るしかない状況に、私は再び追い込まれたのでした。

